

白金台の森からの便り・1 自然教育園で繁殖する鳥

川内 博

先月号の当ページで、「自然教育園・3年間のセンサス調査結果まとまる」というお知らせをしました。その論文が載った『自然教育園報告』は、同園から年報として出されているものです。自然教育園での野鳥調査会の報告は、すでに「自然教育園における2010年代の鳥類調査開始時の状況と今後の展開」（第44号）、「自然教育園におけるシジュウカラの繁殖期の個体数について（2013年度）」（第45号）、「自然教育園における繁殖鳥の状況」（第46号）として発表してきました。そこで、その成果の一端をこれから数回にわたって紹介いたします。



自然教育園のシンボル・カワセミ

自然教育園は、正式には「独立行政法人国立科学博物館附属自然教育園」といかめしい名称ですが、一般には“めぐろの教育園”として親しまれている約20ヘクタールの緑島です。東京都心・港区白金台に位置するこの地の歴史は古く、「縄文中期、人が住みつく」「室町時代と思われる土塁が現存」「白金の地名は1559(永禄2)年から」などなどの記録が残されています。その後も「江戸時代は大名屋敷」「明治時代は火薬庫」「大正時代には御料地」という経歴をへて、1949(昭和24)年、文部省の所轄となり、「天然記念物及び史跡」に指定され、「国立自然教育園」として、一般に公開されるようになっていきます。

そこに棲む生物の状況については、開園当初から調査がされ、1969(昭和44)年から『自然教育園報告』として毎年発表されています。その第1号所収の論文は、「自然教育園の鳥類群集について」で、同園技官の千羽晋示氏によって13ページにわたって掲載されています。その後も同園の技官や外部の研究者によって継続的に調査されています。

1. かつて繁殖していた鳥

対象となる鳥は、コジュケイ、ホオジロ、モズ。いずれも疎林～草原の環境を好むタイプで、数は多くはなかったようですが、繁殖が確認されています。外来種のコジュケイは、開園当時から生息していましたが、1960年代から減少傾向が見られ、80年代に急減し、86年6月を最後に姿が見られなくなりました。原因は園内の森林度が高くなり、身を隠す藪などが林床からなくなったことと、地上性のために、ノネコによる捕食などがあげられます。

ホオジロとモズは、林縁などのある草原を好む鳥のため、そのような環境がなくなったことが一番の原因と考えられます。

2. 新しく繁殖するようになった鳥

対象となる鳥は、ヒヨドリ、コゲラ、エナガ。いずれも森林性の鳥で、ヒヨドリは1970年ごろまでは冬鳥だったのが、徐々に周年姿が見られるようになり、75年ごろから留鳥化し、幼鳥も見られるようになっていきます。しかし、園内では営巣自体は観察されていず、古巣も発見できていません。周辺の住宅地の庭などで繁殖している可能性があります。そのあたりが、いまだに解明できていない、本種の市街地に定着できた原因を探るポイントとなりそうです。

コゲラは、それまでほとんど記録がなかったのが、1986年6月から定着し、90年代には繁殖も確認され、3～5羽の生息が記録され、親子連れや巣穴も発見されています。

エナガは、本園では1960年代と80年代に各1例あるだけでしたが、2001年に古巣が拾得され、同時期にカワセミ調査用のVTRに映っていたのが記録されました。しかし、その後は観察されず、次の記録は2013年で、野鳥調査会の3月調査時に3羽を観察。翌月には巣材らしいものをくわえている個体を発見。翌年6月に巣立ちビナを含む群れを観察。そして15年には、活発な繁殖活動が見られ、本多菊太郎氏によって、園内の笹藪での営巣が発見され〔裏表紙写真・1〕、11羽の巣立ちビナが並んだ写真が撮られました〔裏表紙写真・2〕。



森の妖精・エナガが自然教育園にも

3. 興味ある繁殖の例

対象となる鳥は、カワセミ、オシドリ、アオゲラ。カワセミはいまや自然教育園のシンボルとなっています。開園当時から生息が記録され、1960年代前半までは常時姿が見られていましたが、64年以降はたまに見られる通過鳥となっていました。周辺環境の激変が原因と思われます。それが88年から、園内の枯木・枯枝・枯草などを焼却するために掘られた穴(その後、カワセミ池と名づけられた)〔裏表紙写真・3〕の壁面で繁殖するようになり、翌年も2回繁殖。その後、1993～95年・2000年・2008～09年に営巣し、21年間に55羽の若鳥が白金台の森から飛び立ちました。野鳥調査会の調査期間中(2011～15年)には営巣は見られませんでした。今年いつものカワセミ池で繁殖し、5羽のヒナが巣立ちました。

オシドリは、かつては冬鳥として、本園のひょうたん池などで多数越冬していました(最大羽数：1964年11月に158羽)が、70年代から減少傾向が見られ、90年代には10羽程度になってしまいました。しかし、1996年6月27日に、水生植物園の池で、親鳥1羽とヒナ8羽が発見され、翌97年も5月28日に同池で親鳥1羽とヒナ6羽、98年4月29日にも親鳥1羽とヒナ4羽が観察されています。しかし、その後オシドリ自体の飛来が減り、繁殖は途絶えました。

2015年10月で野鳥調査会の調査は終わりましたが、ビッグニュースがありました。自然教育園報告第46号で記した「今後の繁殖を注目している鳥」のうち、2014年夏から姿が見られ、翌年には2羽の生息を観察していたアオゲラの繁殖が、今年の春、本多菊太郎氏によって記録されました〔裏表紙写真・4〕。本園では、かつてはアカゲラが冬期に飛来していた記録がありますが、アオゲラの記録はきわめて少ない状態でした。このことから、自然教育園の環境が変わったことを知ることができます。

情報募集

1. 高尾山のアカショウビン・今年はいかがでしたか。

昨年は5月～7月の長期間観察された高尾山一帯でのアカショウビン、今年はいかがでしたでしょうか。観察記録・写真などをお送りください。

2. 東京都心部・23区・多摩地区でのウグイスの繁殖

今年は新宿御苑で、5月～7月にかけてさえずりが聞かれましたが、23区・多摩地区ではいかがでしょうか。なかなか繁殖の確認が取りにくい鳥ですが。

3. 今年はムクドリが増えたと感じませんでしたか？

この夏、都内各地でムクドリの群れを見る機会が多かったように思います。皆さんのフィールドではいかがだったでしょうか。印象でも結構ですのでお知らせください。